右上/大学生の農業体験希望者。これからは積極的 に受け入れていく予定。上/4歳の陽菜ちゃんも畑仕 事が大好き。「生の落花生が食べたい」という顧客の 要望に、「作ってみます!」と栽培中の落花生に水やり。

仮面をかぶっているよ うに見えることから「デ ストロイヤー」の愛称 を持つ、珍しいじゃが いも・グラウンドペチ 力も作っている。



上/畑で収穫したばかりのかぼちゃ。 左/ねっとりした食感と強い甘みが特 徴のバターナッツ(かぼちゃの一種)。







倫子さんの趣味はパン作り。「子どもが起き出す前の早朝 に、粉をこねて発酵させています。時には夕方、娘と一緒 に楽しむことも」。畑仕事のおやつタイムにパクリ。モロヘ イヤ入りや、ナッツとベリー入りベーグルなど種類も豊富。



畑で収穫した野菜を出荷 する際は、箱やパッケー ジに、倫子さん作のかわ いいロゴマーク入りシール



「珍しい野菜が多いので、

しい旬の野菜で、

着実に顧客を

たのしい

だす。若き農家の挑戦は始ま

トによる個人直送など

野菜の特徴や食べ方を紹介する便 レストラン向け、私は宅配向けと、

います。

人気イ

シピを考案し

「多品目栽培は繁閑期がない分 たいことはたくさん

## Profile

## 中川貴文さん、倫子さん

ともに1983年生まれ、名古屋大学農学部 卒業。貴文さんは同大学院修士課程終了 後、9年間の会社勤めを経て、2015年に パッチファームを立ち上げ、就農。倫子さ んは2012年に貴文さんと結婚。2児の子 育てと畑仕事に励みながら、農業女子プロ ジェクトのメンバーとしても活躍。

所在地/愛知県田原市赤羽根町中瀬古1 http://patchfarm.biz

いま

結婚前はベーグル店の店 という中川さ ゆくゆくは トなどに

できましたが、栽培に関しては未

直面しながら、習うより慣れよ、 失敗することのほうが多いです」 順がわからなかったり。今はまだ でも販路は、食材宅配を手がける と試行錯誤の真っ最中です。それ 「慣れていないのでスケジュー 多品目栽培ならではの難しさに 苗をダメに け作業の手

を開き、6次産業化も果たしたい、し、自家製野菜を使ったパンで店長まで務めた倫子さんの腕を生か 内外の人に田原市 同士が子連れで交流できたり、 寂しい思いをしないように、 も増えています。 ので、新規就農で移住してくる人 と夢は広がる一方です。 観光農園のように県外から人を呼 「渥美半島は農業が盛んな土地な 一クにも入れている「おつくれれば」と倫子さん。に田原市の情報提供がでに田原市の情報提供がで 慣れない土地で マ

Patch Farm (パッチファーム) /愛知県

## みんなが笑顔になる 野菜を届けたい

夫婦で2年前に新規就農。 点在する狭い農地を " パッチワーク " のように有効活用し、 試行錯誤しながら、数多くの彩り豊かで目新しい野菜の栽培に励んでいます。

取材・文/岸田直子 撮影/原田圭介





「かばちゃ、とれたよ!」と家族でにっこり。長女・陽菜(はるな)ちゃんと長男・陽一朗くん、中川さん夫妻。

る渥美半島でパッ 年間の会社勤めを経て、 られるやわらかさが楽しめます」

名古屋大学農学部を卒業後、

実家の - 一ムを立 たものは種のプチプチした食感が

ものは生でもポリポリ食べ

例えばオクラの場合、

お客様に野菜の新たな魅力やお 穫のタイミングをずらすなどして

しさを提供したいと思っています

いながらもいくつか農地を持ってた、ものを作る仕事がしたい、と。すっとありました。地に足をつけずっとありました。地に足をつけずっとありました。 もともと市民農園を借りて野菜作 点在する畑で、 農業をやろうと思っ

栽培すると同時に、同品種でも収 んと年間50種類以上の野菜を作っ 「同じ野菜でも品種の違う 愛知県・渥美半島の温暖な気候 もと、彩り豊かな旬の野菜を栽

19 aff | November 2017 November 2017 | aff 18